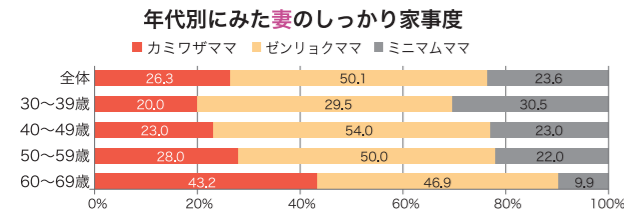
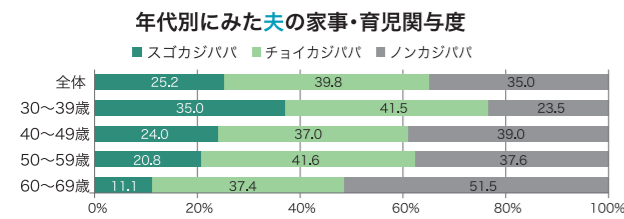




共働き家族に「今」起きていること —これからの家族のハッピーライフ—



夫・妻のタイプ分析と、その特徴

夫の家事・育児の関与度と、妻の家事を「しっかり」するレベルを分類し、「いまどきの夫と妻の詳細な実態に迫ります。

家事・育児にまんべんなく関わる「スゴカジパパ」は、30代が最も多く、年代が上がるにつれてその割合が減少します。

「チョイカジパパ」は育児や掃除には関わりませんが、調理や洗濯にはあまり関わらず、家事に関わりたい気持ちはあります。各年代で多く見られ、特に30代の中では主流のパパです。

「ノンカジパパ」は、家事・育児への関与度が低く、意識面も「家事は女性がするもの」という男女の役割分担意識を持っています。

また、妻のタイプ分類の結果では、30代では「ゼンリョクママ」が多いのに対し、60代では「カミワザママ」が多いという、年代による違いが顕著です。

妻のしっかり家事度チェック「あてはまる」項目に☑ (13項目)

調理	<input type="checkbox"/> 夕食は一汁三菜など品数重視 <input type="checkbox"/> 味付けにはだしを取る <input type="checkbox"/> 基本調味料を使う栄養バランスを考えた献立を考える <input type="checkbox"/> 調理家電を使わない
掃除	<input type="checkbox"/> 雑巾がけ・水拭きする <input type="checkbox"/> いつもきれいに片づける <input type="checkbox"/> 部屋のすみずみまでピカピカにする
洗濯	<input type="checkbox"/> 洗濯物の種類によって分け洗い・下洗いをする <input type="checkbox"/> 乾きやすいように洗濯物を干す <input type="checkbox"/> 几帳面に洗濯物をたたむ <input type="checkbox"/> シャツなどにアイロンがけをする
衣類管理	<input type="checkbox"/> 家族全員の衣類管理をする <input type="checkbox"/> 衣替えをする

☑の数 ■カミワザママ 13~10 ■ゼンリョクママ 9~5 ■ミニマムママ 4~0 平均値7.10

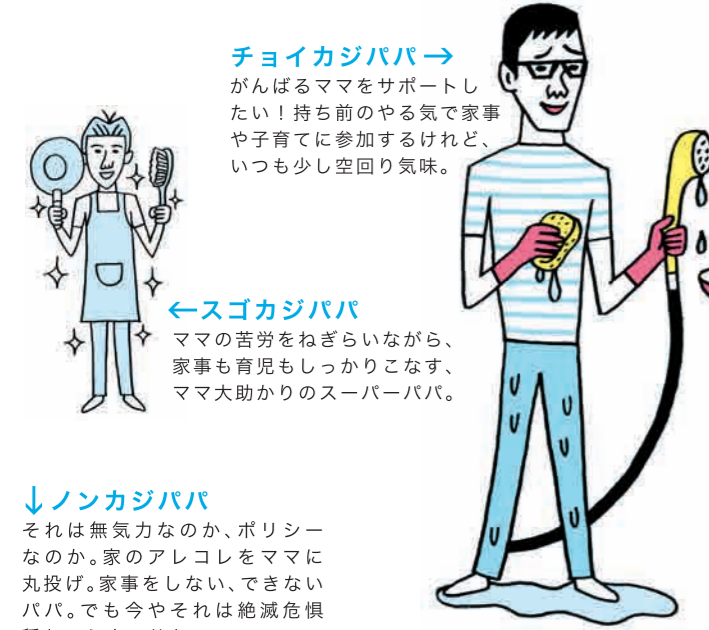
夫の家事・育児関与度チェック「している」項目に☑ (21項目)

調理	<input type="checkbox"/> 朝食のしたく <input type="checkbox"/> 朝食の後片付け <input type="checkbox"/> 夕食のしたく <input type="checkbox"/> 夕食の後片付け
洗濯	<input type="checkbox"/> 洗濯をする <input type="checkbox"/> 干す <input type="checkbox"/> 取込む <input type="checkbox"/> たたむ <input type="checkbox"/> アイロンがけ
掃除	<input type="checkbox"/> お風呂 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 部屋 <input type="checkbox"/> ゴミ出し
育児	<input type="checkbox"/> 子どもをお風呂に入れる <input type="checkbox"/> オムツ替え <input type="checkbox"/> 寝かしつけ <input type="checkbox"/> 保育園・幼稚園の送り迎え <input type="checkbox"/> 着替えの手伝い <input type="checkbox"/> 子どもが病気の時に休む <input type="checkbox"/> 面談に行く <input type="checkbox"/> 保育園・幼稚園の携帯品の準備

☑の数 ■スゴカジパパ 21~11 ■チョイカジパパ 10~5 ■ノンカジパパ 4~0 平均値7.09

今の時代の主流は、チョイカジパパ。

男性も家事をするのが当たり前の時代。だからこそ家事や育児の苦しい自分に頭をかかえるパパ多数。ああ、今日は何も失敗しませんように。



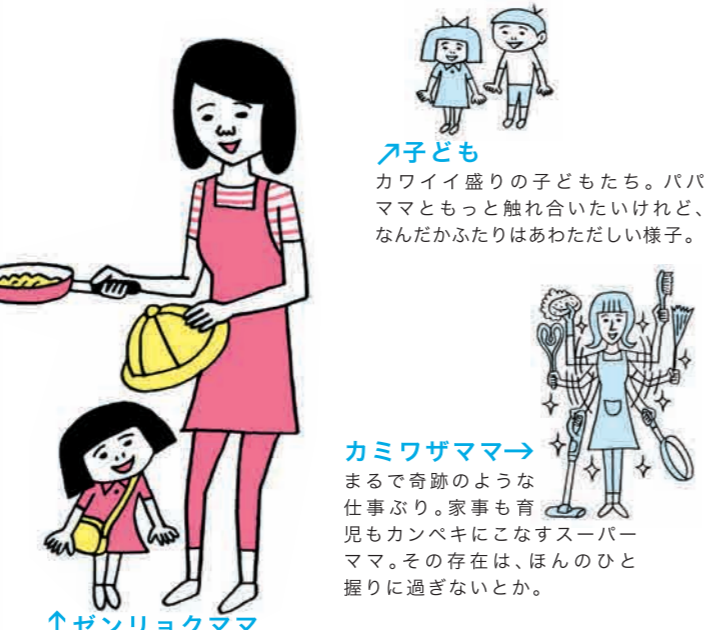
チョイカジパパ → がんばるママをサポートしたい！持ち前のやる気で家事や子育てに参加するけれど、いつも少し空回り気味。

スゴカジパパ ← ママの苦労をねぎらいながら、家事も育児もしっかりこなす、ママ大助かりのスーパーパパ。

ノンカジパパ ↓ それは無気力なのか、ポリシなのか。家のアレコレをママに丸投げ。家事をしない、できないパパ。でも今やそれは絶滅危惧種というウワサも。

仕事も家事も子育ても…。ゼンリョクママ急増中！

がんばるものの、やや空回りも多いパパ。そのそばではママが、全力で仕事・家事・育児に奮闘中。このアンバランスが少しでも解消されれば…。



ア子ども ← カワイイ盛りの子どもたち。パパママともっと触れ合いたいけれど、なんだかふたりはあわただしい様子。

カミワザママ → まるで奇跡のような仕事ぶり。家事も育児もカンベキにこなすスーパーママ。その存在は、ほんのひと握りに過ぎないとか。

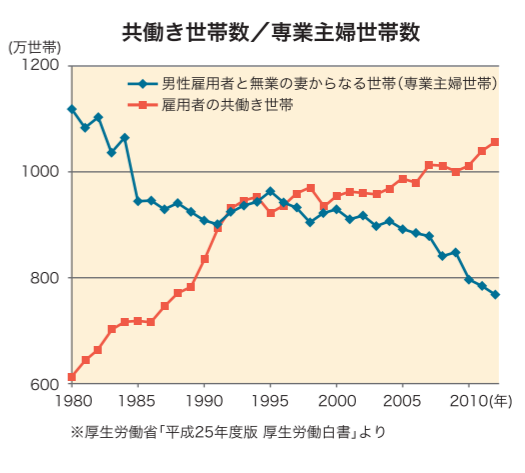
ミニマムママ ↓ 全体的に、家事へのこだわりやポジティブな意識がかなり低い。

これがイマドキの共働き子育て夫婦。

夫婦で経済的な安定を目指す 共働き世帯が増えた

1990年に共働き世帯数は専業主婦世帯と拮抗するようになり、2000年に入ると、逆転し、その差は年々開いていきます。

共働きで働く理由は、かつては「生活のゆとり」や「社会との関わりを持ちたい」という理由が目立ちましたが、今はそれに加えて「生活を維持するため」や「住宅ローンなどの返済のため」といった経済的な理由を挙げる人が増加し、夫婦で経済的な安定を目指す時代となっています。



旭化成は、1989年に、共働き家族研究所を発足しました。当時、共働き家族は先進的な家族で、その住まい方を研究することによって将来の家族像、住まいのあり方を探るのが目的でした。今や30代新築購入層の多くが、共働き家族です。彼らは、一般企業で育休取得が事実上不可能となった世代、家庭科の男女共修世代。親と子、夫婦、個人のあり方、暮らし方への変革が「今」起きています。

働く妻を応援する夫 夫婦関係は友達夫婦が主流

かつては、「夫が外で働き、妻が家庭を守る」という考え方が主流でしたが、現在の妻がフルタイムで働く30~40代の家族は、「夫も妻がフルタイムで働くことを望み、応援する」という考え方が浸透してきています。

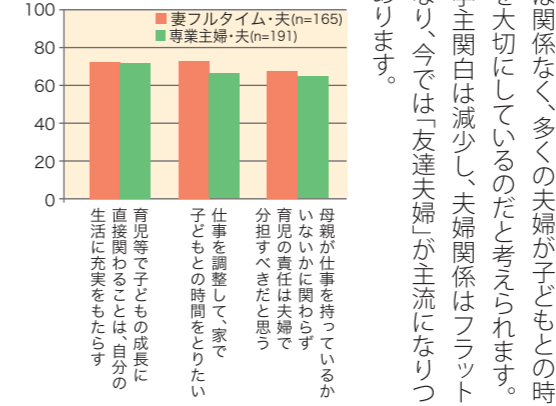
調査データについて、妻の就業形態別に

「いまどき」夫は 家庭科共修の申し子

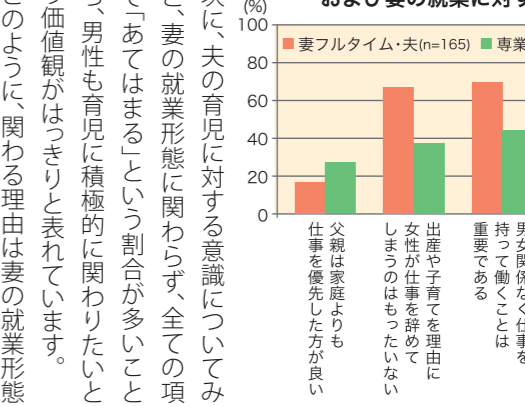
「家庭科」を男女が共に学ぶようになってからは、小学校では戦後すぐの1947年からですが、中学では1993年から、高校では1994年からと最近のことです。中学、高校の「家庭科」では、従来からある食生活、住生活などで調理、衣服の手入れ、住居の手入れや住まい方などを学ぶほか、「生きる力」を掲げた新学習指導要項では、家事や育児に男女ともに関わることを目指す内容となっています。

1994年に中学生、高校生だった人はちよつと今、30代。家庭科教育を受け、家事や育児に抵抗のない世代の男性が今、父親となり、「カジメン」や「イクメン」になっているのではないのでしょうか。

夫の育児に対する意識



夫の自身の仕事観・家族観 および妻の就業に対する意識



夫の意識をみると、妻がフルタイムで働く夫の方が、妻が専業主婦の夫にくらべて「出産や子育てを理由に女性が仕事を辞めてしまうのはもったいない」、「男女関係なく仕事を持つて働くことは重要である」と考える割合が高くなっています。

次に、夫の育児に対する意識についてみると、妻の就業形態に関わらず、全ての項目で「あてはまる」という割合が多いことから、男性も育児に積極的に関わりたという価値観がはつきりと表れています。

このように、関わる理由は妻の就業形態とは関係なく、多くの夫婦が子どもとの時間を大切にしてのだと考えられます。亭主関白は減少し、夫婦関係はフラットになり、今では「友達夫婦」が主流になりつつあります。

※旭化成 共働き家族研究所「2012年 子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

30代夫は手伝いたい気持ち 意識・経験・住宅レベルに問題

共働き家族の中心世代である30代を取り上げ、夫の家事について検証していきます。

夫の気持ちとしては、「もっと家事をして、妻の負担を減らしたい」と思っています。しかし、現実には『意識』『経験』『住宅』のそれぞれのレベルで問題があることが分かりました。

『意識』面を比較すると、「家事はその内容によって夫婦で得意な方がやればいい」「父親が家事するのは子どもに良い影響がある」「家事は楽しみながら行うものである」という意見に対し、「スゴカジパパ」の6〜7割が賛成していますが、「チョイカジパパ」も約半数が賛成しています。このことから「チョイカジパパ」も家事に対して前向きな考え方を持っていると言えます。

一番問題なのは、『経験』レベルでの問題点です。家事をした時、妻からダメ出しを受けた経験が、夫に想像以上にダメージを与え、それが夫の家事関与の阻害要因となり、家事に対するモチベーションが下がる…という、負の連鎖が起きています。

しかしながら、妻のダメ出しを受けながらも、特に「チョイカジパパ」は、他のタイプと比べると「家事をもっと手伝いたい」という『意識』が最も強く、その背景には妻や家族に対する気持ちが表示されています。一方、妻や子どもからの感謝や喜びの言葉が、夫のモチベーション向上に寄与することも明らかになりました。



夫が家事をしやすい住まいとは

家事関与率が最も高い30代フルタイム共働き家族の「スゴカジパパ」に着目し、日頃から家事・育児をしているからこそ気づく『住宅』の問題点を考えます。

「洗濯」

◎お困りポイントワースト3

- 1位 リビングなど家族が集まる場所での室内干しに抵抗がある
- 2位 室内干しのスペースが足りない
- 3位 取り込んだ洗濯物の一時置き場がない

↓解決！ ランドリーサンルーム

共働き世帯では、特に多い夜の洗濯や室内干し。専用コーナーを設けると狭くなるのでは…と考えず、もし部屋の一部を使って室内干しをしているのであれば、よく使うコーナーと割り切って設けてもよいのではないのでしょうか。近くにタタミコーナーがあれば、一時置きやたたみ作業、アイロンがけが、よりしやすくなります。



▲ランドリーサンルーム
室内干し専用のスペース



「調理」

◎お困りポイントワースト3

- 1位 油はね
- 2位 調理中のおいの広がり
- 3位 作業台がない

↓解決！ マルチフライランドキッチン

シンクとコンロが分かれた、一人でも二人以上でも作業しやすいキッチン。シンクを対面させ、コンロは壁付けなので、対面キッチン要素を取り入れながら、コンロを使う時には壁に向かうので、油はねやおいを気にすることなく、調理ができます。また、ぐるぐるまわれる動線です。また、ぐるぐるまわれる動線で、家族揃ってお手伝いもできます。



ぐるぐるまわれる動線



「衣類管理」

◎お困りポイントワースト3

- 1位…帰宅後、濡れた衣類・また着る衣類・バッグなどを一時置きする場所がない
- 2位…自己管理しやすい衣類収納がほしい
- 3位…子どもの衣類や携帯品がどこにあるのかわからない

↓解決！ デイリークローゼット

家族の日常の衣類を集中管理する収納を設ければ、洗濯物を各個室に配らなくてもよくなります。収納内部は、仮置きスペース・コーディネートウォール・収納ゾーンの3つで構成します。

◀コーディネートウォール
明日着る衣類をコーディネートして掛け置きする場所（壁面を利用）

■仮置きスペース
一度着たモノをとりあえず置くスペースがあればニオイのついたスーツの置き場所でも困らない



▲収納ゾーン

洗ったきれいな衣類を管理する場所パパ・ママ・子どもそれぞれの専用スペースがあれば自分で管理しやすい



■リフォームなどのお問い合わせは
アフターサービスセンターまで
TEL 0120・9337・558